

フォーア

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2014年 春号
第78号



ルピシア滋賀水口工場

目次

- | | | |
|---------------------------|-------|-------|
| ■ 第1回珠光茶会の催しに参加して | 中辻 千重 | 1 ページ |
| ■ 甲賀市から琵琶湖畔へ 建物見学ツアーに参加して | 瓶割 環 | 2 ページ |
| ■ 私と建築 | 辻本 希 | 5 ページ |
| ■ 通常総会のご案内 | | 6 ページ |
| ■ 今後の事業予定 | | 6 ページ |

第1回珠光茶会の催しに参加して

中辻 千重

去る2月12日～16日、奈良市内において、「珠光茶会」が開催されました。茶の湯の創始者として「茶道」の基礎を確立した村田珠光が、奈良に縁のあることから、東大寺・西大寺・春日大社などの7社寺やならまちの茶室を舞台に、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家合同によるお茶会やシンポジウム、エクスカージョンが開かれる運びとなりました。

女性委員会では、茶室部会を中心に以前より県内外の茶室を勉強し、「大和茶室探訪Ⅰ・Ⅱ・Ⅱ-2」をまとめ上げた実績があり、遷都1300年に向けて準備をした茶室の実寸大模型やパネルなどの展示物も所有していることからこの機会にそれらを再度紹介できれば・・・ということで、「茶の由来と大和の茶室～おもてなしをささえる か・た・ち～」というテーマでこのエクスカージョンに参加させていただくことになりました。

私が参加させてもらったのは最終日の16日、奈良市観光センターの会場でした。遷都1300年祭の時の模型を少し手直したものが会場の一角に設置され、茶室探訪の内容を抜粋してパネルにまとめたものが壁に展示されており、中央では来場者の方が茶室の起こし絵を体験できるスペースを設けてありました。展示を見に来られた方で、興味をもたれた方が起こし絵を熱心に作成されたり、小さいお子さんが完成してある起こし絵に興味深そうに手に取ってくれていたのが印象的でした。また、販売していた茶室探訪の書籍をご覧になって、ここまで沢山の茶室を丁寧に調べてある本はなかなかないと、とても関心されている方もいらっしゃいました。

同じ展示スペースには高山茶筌の職人の方が、茶筌作りの実演・販売をされていて、高山が茶筌で有名なことは知っていましたが、一から茶筌を作るところを見るのは初めてで、見学に来られた一般のお客様と一緒にすっかり見入ってしまいました。茶筌が流派によってかなり形状が違うことや、複雑

などでも手間のかかる工程を経て作られることなど、初めて知ることも多く、とても勉強になりました。

私は1日だけのお手伝いしかできませんでしたが、期間中には奈良では珍しいくらい多量の積雪があった日もあり、連日会場でスタッフとして担当してくださった皆様ありがとうございました。また、今回の催しのために事前のパネル作成や各会場の事前準備に奔走してくださった方々もありがとうございました。奈良の歴史あるお寺や、ならまちで茶道に触れることができるという素晴らしい機会がこれからも回を重ねて開催され、より茶道がみんなに身近なものとして楽しんでもらえるようになればいいなあと思いました。



エントランス



茶室模型



起こし絵コーナー

『甲賀市から琵琶湖畔へ 建物見学ツアー』
に参加して
瓶 割 環



3月21日（金）、行先は、1997年11月開館のMIHO MUSEUMから、2012年11月竣工の「世界のお茶の専門店ルピシア滋賀水口工場」へ、そして2013年9月にオープンしたホテル、セントマリーナびわ湖、最後は1998年3月に開館した佐川美術館と、盛り沢山な内容で旅はスタートしました。

まず午前中は、MIHO MUSEUMを見学しました。私が働き始めた年に開館した美術館で、何度も訪れたいと思いながら機会を逃していたので、とても楽しみにしていました。

建築物の設計は、パリ・ルーブル美術館のガラスのピラミッドなどで世界的に知られる、I.M. ペイ氏によるものです。幾何学的なガラス屋根が自然とどのように調和しているのか期待を胸に、レセプション棟から美術館棟までの道のりを、自然を楽しみながら進みました。



一行を迎えてくれたのは、茅葺の入母屋を思わせ

るガラスの大屋根の建物でした。中に入ると、目の前に広がる湖南アルプスの借景と、ガラス屋根から差し込む明るい光に包まれました。幾何学的なデザインではあるけれど、ガラスが多用されている事と、建築容積を80%以上地中に埋設された事で、常に自然を感じられる、まるで森の中を歩いているような感覚になる空間となっていました。更に、壁のライムストーンとガラス屋根から降り注ぐ光がうまく作用しあって、柔らかさと心地の良さを感じました。



館内は、南館と北館に分かれており、南館の展示室には、エジプト、ギリシャ、ローマなどの古代美術が常設展示されています。北館の方は、季節により特別展の会場となっており、今回は「江戸の異国万華鏡～更紗・びいどろ・阿蘭陀～」という展示が行われていました。私はこの特別展の方から見学しましたが、長い年月を経ても変わらない繊細で鮮やかな色合いの更紗に魅了されてしまい、時間を忘れてじっくりと見学しすぎ、常設展の方がほぼ見学できずという事になってしまいました。何回か来られている方に何うと、常設展の方はかなり貴重でなかなか見る事のできない物が揃っているという事で、残念の一言でした。また次回一日かけて訪れたいと思いました。

お昼は、美術館内のレストランにて、地元の素材にこだわられた松花堂弁当を頂きました。お豆腐が絶品でした。



午後からは、まず最初にルピシア滋賀水口工場の見学をさせて頂きました。その工場は、広い工業地帯の中でも一際目立つ存在でした。何と言っても、まず目に飛び込んでくるのは、製品の搬出入を行うプラットフォームを覆う、アルミパネルの大庇です。出幅7.25m、全長は85mもあり、傍に降り立つとその迫りに圧倒されてしまいました。

ルピシアという会社は、ブレンドティの生産・販売を行っている会社です。滋賀水口工場が出来た経緯は、東日本大震災の発生を受けて、それまで栃木県宇都宮市の工場だけであったのを、関東地方以外にも生産拠点を設けるために計画されたとの事でした。まず会社社長から、設計者の古谷誠章氏にお願いされた事は、「社員が、働くのが楽しく、幸福だと感じられる工場を作ってほしい」という事だったそうです。その思いを意識して、働く人たちが誇りを持って、毎日楽しく働けるように工場前面に「晴れ舞台」として用意されたのが、「大庇」という形で表現されたそうです。そして、その大庇に使われているアルミパネルは、震災で大きなダメージを受けた気仙沼にある高橋工業が製造されたものです。一度工場をなくされ、何もない状態から短い期間で造り上げられた事、大変なご苦労があった事を、施工

された竹中工務店の方から伺い、心に込み上げてくるものがありました。この庇は従業員の方の晴れ舞台というだけでなく、震災からの復興再建に努力されている方皆さんの晴れ舞台のように感じました。

工場についての説明は、2階にある従業員の方のランチルームで伺いました。傍には屋上緑化が広がり、工場に居るとは思えない開放感があり、ほっとできる空間でした。ここにも働くのが楽しく、幸福を感じるという思いが込められていると感じました。

工場の方から説明を受けた後、工場内を見学させて頂きました。工場内は、ランチルームもそうでしたが、とても衛生的で、原材料の搬入から製品の出荷までのラインが明確な配置となっていました。現場の方からも、この工場で働いてみて改めて衛生面に気を付けられるようになったという声を聞きました。食品を扱う工場では当たり前かもしれないけれど、きれいな工場、気持ちのいい空間が、改めて仕事の原点を思い返させてくれるとの事でした。

働く楽しさの追及は、ピクトサインのデザインにも表れており、とても心和むものでした。工場内の撮影ができなかった為ご紹介できないのが残念です。工場にもこんな明るさがあれば気持ちよく働けるだろうなと思える空間でした。



見学の後は、気持ちのいいランチルームでブレンド製造されているダージリンティとクッキーを頂き、ほっこりとした時間を過ごさせて頂きました。いつまでもこうしたい気持ちになりましたが、盛り沢山な見学会はまだまた続くという事で、名残惜しい気持ちで工場を後にしました。

次に訪れたのは、芦沢竜一氏設計のホテル「水辺の絶景宿 セトレマリーナびわ湖」でした。…が、結婚式シーズンに入っていたのと、前半から少し時間が押していた為、外観のみの見学となりました。



琵琶湖を意識された建築物で、地元の土を用いた「大津壁」や土の層が見える「版築の壁」等、色々な見どころがあるそうなので、またじっくり訪れたいと思いました。できれば、宿泊で美味しいものを頂いてゆっくりと。

最後に訪れたのは、竹中工務店設計・施工の佐川美術館でした。琵琶湖の水面が延長してきたような水庭に、早速心が洗われた感じがしました。

佐川美術館は、佐川急便株創業 40 周年記念事業の一環として開館されました。常設展では、日本画家の平山郁夫氏、彫刻家の佐藤忠良氏、陶芸家の樂吉

左衛門氏の作品を展示されており、特別展として「弥次喜多珍道中展」が開催されていました。私としては、美術館に併設されているお茶室が見学したかったのですが、予約時間が間に合わず、またの機会となってしまいました。残念ではありましたが、この一日の事を思い返すと、とても密度が濃くて、おなか一杯の旅だったなど、大満足致しました。



この時期に、雪にまみれ真冬を思わせるような寒さでしたが、心はとても温かくなった良い一日を過ごすことができました。

【私と建築】についての題材で原稿を書いて欲しいとお話を頂いて。じっくり考えた。

改めて考えると、私と建築って何だろう？
ウダウダ考えてみる。
ただ仕事をしている時間が楽しい。
この切り口から掘り下げてみよう・・・

施主さんの希望を聞きながら、お喋りして
新しく出来る家を想像しながらニタニタ。
間取りの使い勝手を考えながら、配管の位置を考え、
左脳と右脳をフル活用。

施主様と業者さんの間に立って、この家に関わった
全ての人が気持ちよく仕事ができるようにするのが
私の仕事。
無理難題を業者さんに伝えなくてはならない時もある
けど、私をよく知る彼らは本当に素晴らしい仕事
をしてくれる。
仕事を通して、人と人が繋がっていく。

完成した時のお客様の笑顔。
業者さんの誇らしげな顔。
この瞬間が見たくて、私はこの仕事を続けている。

私にとっての建築とは・・・
人とのつながり。

素敵なきがりを求めて、私は今日も楽しく仕事を
している。



この写真は仕事の仲間と打上げでの1コマ。
3月のシーズンを乗り切った後の皆の笑顔。
体はクタクタなはずなのに最高の笑顔。

苦楽を共にする信頼できる仲間がいるから
いい仕事出来る！！ほんと、感謝！感謝だ！！



平成26年度 通常総会のご案内

平成26年度 通常総会が以下の日程で開催されますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

1 会場 「奈良県文化会館」
奈良市登大路

2 日時 平成26年5月20日(火)

(1) 受付 15:00～

(2) 総会 15:30～17:15

議事

- ・平成25年度事業報告及び決算承認
- ・役員を選任
- ・平成26年度事業計画及び予算(案)の承認
- ・その他

感謝状贈呈

終身会員証授与

(3) 懇親会 17:30～19:00

会費：3000円(当日徴収)

すでにお手元に案内が届いていると思います。出欠を5月8日(木)までに事務局へご返送ください。

一般社団法人の認可を受け、総会の議決には総正会員の過半数の出欠(委任状を含む)が必要です。

出席できない場合は、必ず委任状も合わせてご返送ください。

今後の事業予定

- 5月 8日(木)～12日(月)
一級建築士試験申込受付
- 5月20日(火)
通常総会(奈良県文化会館)
- 6月13日(金)
(公社)日本建築士会連合会通常総会
(東京:建築学会ホール)
- 6月14日(土)
近畿建築士会協議会青年部会 奈良会議
- 6月25日(水)
第1期一級・二級・木造建築士定期講習
- 7月 6日(日)
二級建築士「学科」試験
(奈良県立大学)
- 7月27日(日)
一級・木造建築士「学科」試験
(奈良県立大学)
- 8月26日(火)
二級建築士「学科」試験合格発表(予定)
- 8月27日(水)
第2期一級・二級・木造建築士定期講習

～ 編集後記 ～

日の暮れるのがどんどん遅くなり、時間に余裕ができたような錯覚にとらわれますが、仕事に追われることには変わりありません。今回の見学会に参加できませんでしたが、自然と融合している美術館や自然災害のダメージからの復活を成し遂げた人々の工場など記事や写真からイメージが膨らみ編集していても楽しかったです。2年間、「フープ」を担当させていただきましたが、今回で最後となります。

お忙しい中、無理を言ってご寄稿いただいた方々、本当にありがとうございました。今後もフープに皆様のご協力をお願いします。
(庄田 尚代)